

■…この夏の暑さ、すぎまじいものでした。ヤセ型で暑さに強いのが自慢の友人もさすがにダウン。いわゆる「熱中症」とやら。この熱中症、ついこの間まで「日射病」といつていたのではなかったですか。医者に聞いたら「熱失神、熱けいれん、熱疲労、熱射病をまとめたもの」だそうです。ボケの痴呆を近ごろは、「認知症」といつてみたり、まさか言葉をもて遊んでいるわけではないでしょうね。

■…「格付け」という用語も訳けが分かりません。去る8月5日、米国債の格付けが史上初めて引き下げられました。「誰がそんなことを？」という「S&P」という大手格付け会社の判定。最上級がAAAです。米国はAAプラスに。日本の国債は4番目のAAマイナスだそうで、米国債は世界で最も流動性が高く、信頼の厚い債券。ほかの大手格付け会社（ムーディーズやフィッチ）は今、回据え置いているのに。かつて勝手に放題の格付けで金融市場を大混乱に陥れる原因をつくった若い経験者も忘れたのでしょうか。その程度の能力

しかない格付け会社が未だに大手を振っているのが現実。

■…大地震と津波、それに原発事故と不幸が3つも重なった日本ですが、略奪、暴動も起こさず復興に必死。財務省発表の7月貿易統計では輸出から輸入を差し引いた貿易収支は725億円の赤字で、これは2カ月連続。災害で寸断された部品調達・供給網の復旧が進んできたことが大きな要因だそうです。歴史的な円高という一面もありますが、まあ、コツコツと努力を積み重ねていくことですか。


■…大震災から5カ月経過した現在、世界から今だに支援が届いているそう、これは心温まるお話。外務省調べでは、8月18日現在、124の国・地域、国際機関からの寄付金は計174億円とか。太平洋の小さな島国ツバルやキリバスから計570万円の寄付金。この島の人たちは地球温暖化による海面上昇で今にも水没しかねないという大きな心配事があるにもかかわらず…。外務官僚は「政府開発援助（ODA）による日本の国際貢献への謝意」と、当然のお返し、みたいな受け止めよう。我々庶民はありがたいのびと言て感

謝感激ですよ。

■…災害のマイナス面は日本を訪れる外国人が急減したことでしょう。町を歩く外国人に聞いてみると、ネットは円高と食物の放射能汚染がそうです。レストランに案内して「大丈夫」とけしかけたら食べること、食べること。どうやら福島原発事故のニュースが過大に報道されているせいでしょうか。日本人自身も日々の災害関連ニュースに辟易しています。マスコミもそろそろ他のニュースを探したら、といいたくもなりませんよ。

■…9世紀といえば大昔も昔、東日本で地震が続いて発生、その直後太平洋沖で大津波を伴う「貞観地震」、その18年後に南海地震が起こったそうです。868年の兵庫県山崎断層帯による播磨地震のあとの887年に南海地震です。地震は起こると続いて発生する、とは専門家の弁「次は西日本か」と居酒屋談議も熱をおびるよう。まあ日ごろから警戒心を持つことですね。

■…回転木馬の菅政権が1年3カ月で落馬、野田新政権に何処まで期待できることやら。小沢色をゼロにすればそれだけで持ちそうですよ。

 <p>月刊公論 MONTHLY Kōron</p>	発行人 大 中 吉 一 発行所 株式会社財界通信社 〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラワービル TEL.03-5379-5611代、FAX.03-5379-5616	編集人 田崎義信 土井正彦 印刷所 株式会社廣済堂 取次店 トーハン/日本出版販売/大阪屋/栗田出版販売
	10月号 第44巻10号 平成23年10月1日発行 毎月15日発売 定価890円(本体848円) 送料92円	●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。 ●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。